

平成30年度

第2回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 平成30年12月17日(月)午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 1階 大会議室
3. 議 題 (1) 平成31年度重点的に取り組む教育施策について
(2) 子どもたちの夢・あこがれを育む具体的な方策について
(3) 平成31年度以降の教育等の振興に関する施策の大綱について
4. 出席者 菊地啓夫市長、百井崇教育長、佐藤雅晴教育長職務代理者
小林修子委員、藤川チユキ委員、南館公雄委員
5. 出席補助職員
鈴木隆夫副市長、大友彰総務部長、菅井秀一市民経済部長
高橋広昭健康福祉部長、星幸浩建設部長、及川浩市参事兼学校教育課長
沼田輝明生涯学習課長兼スポーツ振興課長、遠藤大輔政策企画課長
6. 欠席委員 なし
7. 傍聴者 なし
8. 本会議の書記
山下真理子教育総務課総務係長
田崎恭子教育総務課主事
9. 開会 午後3時00分
10. 閉会 午後4時43分
11. 議事録署名人
藤川チユキ委員
12. 事務局職員
高橋弘昭教育次長兼教育総務課長事務取扱
山下真理子教育総務課総務係長、田崎恭子教育総務課主事
13. 議事の経過
以下のとおり

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

只今より平成 30 年度第 2 回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、菊地市長より開会の御挨拶をお願いします。

菊地市長

第 2 回岩沼市総合教育会議へ御出席いただき、ありがとうございます。

今の時期、議会や様々な会合において多くの情報をいただいておりますが、平成 31 年度予算作成にあたり、教育委員の皆様からも御意見を伺いたいと思います。また、平成 30 年度にこれまで取り組んだ事業について御報告申し上げ、御意見をいただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

議会が今月 4 日から 13 日の会期で行われました。そこで御指摘を受けた件、執行部から御提案申し上げて御意見を伺った件について数点お話させていただきます。

1 点目、体育施設を指定管理者による運営に移行することについて、全議員から賛成をいただきました。来年 4 月から始まるわけですが、技術のある方をお願いすることで、子どもたちの指導も含め、より良い運営がなされることを期待しています。フクシ・オーエンス共同事業体という東京の業者に引き受けていただきました。今後は、体育協会との連携により運営されます。

2 点目、今年は猛暑の夏であったことから、日本中で学校にエアコンを設置しようという動きになりました。岩沼市においても小中学校の教室へエアコンを設置する意思表示をさせていただき、今回の議会でエアコン設置業者と契約を結ぶことについて議決を得ました。当初は設置費用に 7 億 5 千万円掛かると見込んでいたのに対し、結果 4 億 5 千万円の入札額で費用額は下がりましたが、買取よりリースの方が良かったのではないかとの声もあります。リースでは国の補助が得られないことから、岩沼市では国の補助が得られる買取によりエアコン整備することを選びました。来年 7 月 1 日から使用できるようにすることを目指しています。全国 1800 余の自治体が一斉にエアコンを設置しようとしていることから、職人や機材の不足が予測されていますが、岩沼では設計施

工一括発注とし、メンテナンスを含んだ提案をしてもらうという手法により、他自治体より一步前に進んで動いています。

3 点目、不登校生徒に対する対策についてお話をいただきました。不登校生徒の受け皿を作ろうという思いから、県の支援を受け、子どもの心のケアハウスを岩沼市でも作るという意思表示をさせていただきました。

4 点目、震災の影響で後回しになっておりましたが、今年、陸上競技場の改修工事を発注し、いよいよ完成形が見えてまいりました。来年1月末に教育委員会へ引き渡しになる予定です。陸上競技場も指定管理者により管理運営されることになり、まもなく学校行事等でも使っていただけるようになります。

5 点目、原遺跡について、貴重な遺跡であることを度々議会でも報告しております。現在、遺跡がどこまで広がっているかの調査をしており、全容を突き止めようとしています。

これまで大きな動きが数多くございました。震災復興の仕上げの時期に入ってまいりましたので、今後は、教育や子育てにさらに力を入れていきたいと考えています。

本日は忌憚のない御意見をいただき、平成 31 年度予算に反映させていきたいと思えます。どうぞよろしく申し上げます。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、百井教育長より御挨拶をいただきます。

百井教育長

今年度は教育委員会関係のとても大きな事業が進んだ年だと思います。各部署にはさまざまな面で御協力をいただき、感謝申し上げます。

子どもの心のケアハウス事業については、県から不登校対策として提案されたものですが、子どもたちがいつでも来られる場所になればと思い、手を挙げました。始めたからといって、すぐに実効性があるとは言えませんが進めたいと思っています。地域の方々からも、大人が集まる場所に子どもたちを呼びたい、子どもたちが外に出る機会を

作りたいという話をいただいております、市全体で子どもたちのことを考えてもらっていることを実感しています。

本日は皆様から御意見をいただきながら、平成 30 年度の総括をし、平成 31 年度の方
向性を決めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

それでは会議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第 4 条の
規定によりまして、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を
進めていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

菊地市長

規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、議事録署名人を決めさせてい
ただきます。今回は、藤川委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

議事録署名については、藤川委員にお願いします。よろしくお願いいたします。

事務局から、これまでの教育課題に対する取組状況を報告してください。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

教育総務課から御報告申し上げます。

1 点目、学校施設・設備の整備等につきましては、学校の安全・安心を優先とした施
設・設備の維持補修、備品の整備を進めております。みやぎ環境交付金を財源とした、
岩沼北中学校屋内運動場の LED 照明更新は、冬休み期間に実施することで準備を進め
ております。各学校から当初予算見積りに要望のあった優先順位の高い修繕から取りか
かっておりますが、老朽化による緊急的な修繕に対応するため、繰り延べる修繕もあり、
地元業者に協力をいただきながら取り組んでおります。

2 点目、長寿命化計画に沿った学校施設の改修につきましては、30 年度において岩沼

北中学校と岩沼西中学校のトイレの洋式化工事がまもなく完了する見込みでございます。このことによって、トイレの洋式化率は84%を超えます。

3点目、学校のICT環境の整備につきましては、教員の校務用パソコンを一人1台ずつ支給したことに続きまして、デジタル教科書の配信体制も整い、児童・生徒4人のグループにタブレット1台を配置して授業ができるよう整備が始まりました。29年度中にタブレットを小学校では担任全員、中学校では教科指導教員全員へ支給がしております。

4点目、給食調理業務等の民間委託につきましては、現在、中学校4校、玉浦小学校と岩沼西小学校の民間委託を実施しており、岩沼小学校と岩沼南小学校にあつては、平成31年2月から民間委託が開始できるよう準備を進めているところです。これで市内小中学校の給食調理は全て民間委託になります。

及川参事兼学校教育課長

学校教育課の事業について、報告いたします。

1点目、夢やあこがれを育む教育活動の展開です。総合的な学習の時間・特色ある学校づくり、ユニーク先生の活用等、人を育てるための予算を手厚くつけていただいております。子どもたちの夢やあこがれを育む、大事な予算であると捉えています。夢・あこがれ事業につきましては、今年で8回目となる理科大好きフェスティバルは、南小学校を会場に約250名の方々においでいただきました。

2点目、学習習慣の確立と定着を図る取組では、学び塾を中心として展開してまいりました。前期のまとめとしては、53回開催、延べ1701人の児童生徒が参加しております。学び塾支援員として、学生を中心とした182人の協力をいただきました。

3点目、一人ひとりのニーズに応じた支援の充実についてです。岩沼市の教育で他市町村から羨ましがられている事業の一つではないかと思うのですが、各種指導助手及び特別支援教育支援員を今年は総勢29名配置しております。また、配置して終わりというのではなく、指導助手・支援員の研修会、特別支援教育に関わる方々が一同に会しての研修会、協議会を開催しています。

4 点目、国際理解を育む教育、外国語教育の充実についてです。小学校における外国語活動、外国語の全面実施につきましては、平成 32 年度からですが、それに先立ち、今年度は ALT を 2 名増員して 5 名配置していただいております。ALT を講師として外国語研修会を実施し、小中学校の外国語担当を集めて推進会議も開催しています。

5 点目、一人ひとりを大切にした生徒指導と心のケアの充実についてです。岩沼市ではスクールカウンセラーを 7 名、スクールソーシャルワーカーを 1 名、子どもと親の相談員を 2 名配置しています。配置するだけでなく、この方々と横のつながりを大事にしたいとの考えから、教育相談担当者会議を開催しております。また、12 月 20 日には、教育・いじめ防止フォーラムを開催します。児童生徒も参加し、それぞれの学校の特色を語って、いじめ防止宣言を行う取組を計画しています。

6 点目、家庭・地域社会に開かれた信頼された学校づくりについてです。ふれあいパトロール隊の方々や学校評議員の方々に御支援をいただきながら、新しい教育指導要領で述べられている「地域に開かれた教育課程」の見直しを図っているところです。学校だけで教育が完結される時代ではなく、地域の方々と共に同じ方向を目指しながら子どもたちを育てていきたいと思っています。

7 点目、教職員の働き方改革についてです。昨年度の超過勤務時間が平均 60 時間程度あったものを、今年度は 15%削減して平均 51 時間にすることを目標に取り組んでまいりました。現在のところ平均 42.4 時間の超過勤務時間で、目標の 51 時間は達成できるように思っております。それでも 42.4 時間の超過になっておりますので、更なる見直しを図ってまいりたいと思います。また、「部活動ガイドライン」につきましては、市全体のものは既に作成していますが、4 月に向けて各学校の部活動方針をまとめているところです。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

生涯学習課の主な事業について、報告させていただきます。

はじめに、現在、第三次生涯学習推進計画を作成中でございます。今年度中に作成し、

来年度から5年間この計画に基づき、市民の生涯学習支援を行ってまいります。

1 点目、学習機会の充実についてです。子どもたちの放課後の居場所づくりということで、のびやか教室を開催しております。4小学校において、毎週1回約2時間、宿題等の学習時間、物作りや体験活動などのプログラムを、各教室のコーディネーターが中心となって、地域のサポーターさんから協力をいただきつつ、工夫しながら実施しています。今年度も、学校教育課で主催しております放課後「学び塾」とのコラボということで、大学生などの支援員さんから子どもたちに学習支援をいただいております。コーディネーターさんはもとより、利用者や保護者の方々からも大変好評をいただいております。また、学校と地域社会との協働事業、コラボスクールとして、グリーンピア岩沼の身近な里山を散策する、里山体験学習を実施しております。

これらに加え、今年度で3年目となる、岩沼に愛着を持つ人材育成事業を2事業展開しております。一つ目は、岩沼の食文化である「はらこ飯」の由来と作り方を勉強し、「はらこ飯」を味わってもらう事業を、今年度は岩小6年・玉中3年・岩中3年を対象に実施しております。二つ目は、松尾芭蕉「奥の細道」いわぬま二木の松俳句大会です。今年度も冬季休業中の自由課題として、市内小学校5・6年生、中学生を対象に作品を募集します。昨年同様の約2千点の応募を見込んでおり、応募された作品は、市民図書館2階のギャラリースペースに全て展示することとしております。

2点目の青少年健全育成活動の推進では、関係者による街頭巡回指導を年30回行っております。また、子ども会育成会との連携によるジュニア・リーダー研修会・子ども合宿等を開催し、ジュニア・リーダーの育成・支援に当たっております。

それから、文化財や歴史資料の調査と保存・活用についてです。市史編纂につきましては「資料編：近世」の刊行に向けて、資料の整理、原稿のチェック等を行っております。原遺跡については、今年度第3次調査を行った結果、8世紀前半の「駅家」や「関所」であった可能性が高い7m×20mの掘立柱建物の跡が見つかったほか、2万点を超える遺物や、複数の竪穴建物跡、重要な建物郡を守る材木堀跡などが確認されたことか

ら、地域住民の方々及び市民の皆様などを対象とした現地説明会を開催いたしました。現在は、埋め戻しを行い、元の水田に戻しております。その他、学校へ出向いての出前授業、ふるさと展示室を活用した歴史学習及び企画展等を開催いたしております。

生涯学習課は以上になります。

引き続き、スポーツ振興課の主な事業について申し上げます。

1 点目、スポーツ団体活動の支援としまして、岩沼市体育協会及び岩沼市スポーツ少年団本部への支援・助成を行っているほか、学校開放事業、生涯学習振興基金によるスポーツ活動への助成を行っております。

2 点目、スポーツ施設の整備と活用の促進についてです。市内体育施設の管理運営について、指定管理者制度を活用した民間委託ですが、先月の教育委員会定例会において、10月末までに3共同企業体から応募をいただき、11月12日の指定管理者選定委員会において、候補者企業を選定する旨をお話させていただきました。

その後の経過についてです。選定委員会において「フクシ・オーエンス共同企業体」が候補者企業として選定され、市議会12月定例会において議決をいただき正式決定となりましたので、年度内に指定管理者側と協定を結ぶこととなります。また、同企業には、来年の1月から引継ぎ準備作業として3ヶ月間、総合体育館で業務を行ってもらい、4月1日から市内体育施設9施設の管理運営を行っていただくこととなります。

次に、陸上競技場の改修工事についてです。今年度、totoの助成金を活用し、陸上競技場のトラック・芝生フィールドの全面改修工事を行いました。教育委員の皆様にも工事中に視察していただきましたが、現在、ほぼ工事は完了し、トラック部分については、市への引き渡しを受け、12月2日開催のエアポルトマラソンで使用することができました。今後については、来年1月末日に全て引き渡される予定となっております。一般開放についてですが、トラック部分については来年4月から、フィールドの芝生部分については、芝生の養生期間が5月いっぱいまで見込まれることから、6月からといたしております。

菊地市長

続いて、議題（1）平成31年度重点的に取り組む教育施策について、事務局から説明してください。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

平成31年度、重点的に取り組む教育施策について、教育委員会全体としての基本方針でございますが、いわぬま未来構想に掲げるまちづくりの柱の1つである「生涯現役で心豊かな『人』づくり」の実現に向け、教育基本方針、教育等の振興に関する施策の大綱を具現化するため、学校教育環境の整備、学校教育と支援体制の向上、生涯学習環境と支援体制の向上、生涯スポーツ環境と支援体制の向上に着目して、各種施策に取り組んでまいります。

はじめに、教育総務課でございます。

1点目、先週の市議会定例会におきまして、普通教室、職員室など207室にエアコンを設置するための工事契約をお認めいただきましたので、来年の6月末までの整備に向けて取り組んでまいります。この事業につきましては、緊急の課題であったにもかかわらず、全庁的に取り組んでいただき、改めて感謝を申し上げます。

2点目、28年度に取りまとめました学校施設長寿命化計画に沿って、計画的に維持補修を実施してまいります。岩沼西小学校屋内運動場の整備については、交付金の決定を待って、2カ年度事業で実施できるよう、準備を進めてまいります。

3点目、学校給食調理等業務のアウトソーシングにつきましては、31年度から、全ての小中学校でアウトソーシングとなりますので、事故のないように、安全・安心で美味しい給食を提供できるよう管理してまいります。

4点目、中学校のトイレ洋式化につきましては、31年度に岩沼中学校のトイレ洋式化を交付金事業で工事ができるように交付金の申請を行っておりますので、西小学校屋内運動場と同様、交付金の決定を待って、工事ができるように準備を進めてまいります。

及川参事兼学校教育課長

学校教育課につきましては、4点申し上げます。来年度につきましても、「夢をはぐくみ 愛のある教育」の一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

1点目は「学び塾」の充実です。学び塾は子どもたちにだいぶ定着してまいりました。10月頃から在仙の大学を訪問し、支援員の確保に努めています。

2点目は、総合的な学習の時間・特色ある学校づくりの推進です。学校長裁量で執行できる予算で、学校のさまざまな特色付けに大変有効な予算だと考えています。

3点目、教育環境の整備です。小中学校指導助手、特別支援指導助手、特別支援教育支援員の配置について、昨年度は各学校から41人の配置希望がございました。それに対し、31人分の予算を確保ということで今年度は進められています。来年度につきましては、各学校から45人の配置希望に対し、35人分の予算を要求しているところです。指導助手、支援員につきましても、各大学を訪問し、人材の確保に当たっているところです。また、ALTの配置につきましても継続配置をお願いしているところです。小学校の外国語活動・外国語、中学校の英語の授業について関連付けながら、32年度の全面実施に向けて準備を進めています。現在のALTと教職員の関係はスムーズで、子どもたちとの関係も良い状態です。来年度も同様の関係で進めたいと考えています。

4点目、一人ひとりを大切にした生徒指導と心のケアの充実です。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の配置については今年度と同様ですが、子どもの心のケアハウス運営事業を新たに立ち上げたいと考えております。不登校児童生徒の居場所づくりを第一の目標とし、保護者が相談できる場や不登校ぎみの子どもたちへの学習支援をできる場になればと思っています。

予算が決まらないので、資料への記載はありませんが、今年度、教職員と教育委員会事務局職員で南国市訪問をしてまいりましたことから、来年度には児童生徒を南国市へ派遣して交流を図り、自分たちの防災学習の取組を紹介する場が持てればと考えています。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

生涯学習課から申し上げます。

1.協働教育の推進では、学校と地域との協働教育として開催しております「のびやか教室」は、子どもたちの放課後の居場所づくりという点で大切な事業と捉えておりますので、継続して開催したいと考えております。また、岩沼に愛着を持つ人材育成事業として、郷土料理を学ぶ「ふるさとの味はらこ飯の学習」及び「松尾芭蕉奥の細道いわぬま二木の松俳句大会」を継続して開催できるよう、必要な予算を計上しているほか、子どもたちの移動手段を確保することで、学校外学習の機会を増やすためのバス運行の委託経費なども計上いたしております。

2.市史編纂の推進につきましては、計画に沿って、平成31年度で、資料編：現代、特別編：民俗の発刊作業を進めてまいります。

3.埋蔵文化財包蔵地の適切な保存と調査の実施についてですが、特に原遺跡の第4次調査の実施です。来年度は遺跡範囲を確認する調査として、常磐線線路の東側の農地の発掘を行いたいと考えております。

4.社会教育施設等の管理運営については、市民の余暇活動を充実させることが、市民にとっての「住みやすさ」につながると考えておりますので、市民会館、公民館、市民図書館の適切な管理運営を行ってまいります。特に市民会館については、建設から30年以上経過しており、これまでに大ホール舞台設備、音響設備等の改修は順次行っておりますが、施設全体の空調設備の老朽化が著しく、一部エントランスホールについては空調が効かない状態となっておりますので、来年度で設計の委託費について予算計上いたしております。また、中ホールの照明設備についても、建設以来更新をしておりません。さまざまな支障が出てきておりますので、新年度で改修予算を計上いたしております。

生涯学習課については以上となります。

引き続き、スポーツ振興課について申し上げます。

1.指定管理者による体育施設の管理運営につきましては、先ほどこれまでの取組状況

について御説明申し上げました。来年4月から「フクシ・オーエンス共同事業体」に市内9つの体育施設の管理運営をお願いすることになりましたので、来年1月から3月までの引継ぎ準備期間を含めて、4月以降スムーズに管理運営を移行できるようにするとともに、移行後の経過について、安全安心な施設の管理運営及び市民サービスの向上等についてのチェック体制を充実させていきたいと考えております。

2.陸上競技場のリニューアルオープンについてです。来年6月から芝生フィールドについても利用可能になると見込んでいることから、6月にリニューアルオープン記念イベントを計画いたしておりますので、指定管理者と協議を行ってまいります。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

ただいまスポーツ振興課長から、体育施設について、指定管理者による運営が31年4月より開始されることを説明いたしました。この事業も全庁的に御支援をいただき進めることができました。あらためて、職場・同僚の皆様へ感謝申し上げます。

事務局からの説明は、以上でございます。

菊地市長

事務局からの報告、説明について、委員の皆様より御意見を申し上げます。

南館委員

ALTの配置について、小学校の外国語活動等に力を入れており、大変素晴らしいことだと思います。脳の発育を考えると、8歳から10歳にリスニング力が伸びると言われています。ALTの方々の授業を集中して聞き、子どもたちの英語力が伸びることを期待しています。

エアコンの設置について、早めに工事に取り掛かれるよう準備されていることをありがたく思います。エアコンはとても良い物ですが、乾燥や身体の冷え、自律神経の乱れ、だるさ、夏風邪など意外な作用があることも考えておく必要があると思われ。家庭でのエアコンの使い方とは異なると予想されますので、温度設定やオン・オフの管理、メンテナンスをしっかりと行い、様々な注意をお願いします。埼玉県所沢市ではエアコン

による騒音問題があったそうですので、多方面の注意が必要になると思います。

藤川委員

地域の方々と協働で事業に取り組んでいることは、生涯学習の分野で多くの成果を上げていると感じました。市民の方々の学習成果や多様な取組を何かの形で学校教育に活かせれば、地域と学校のつながりが広がるように思いますし、そのように生涯学習のあり方や学校教育のあり方を考えていければ素晴らしいと思います。重点的に取り組む教育施策を伺って、希望が沸いてきました。これからもよろしくお願いします。

菊地市長

市民活動サポートセンターや市民交流センターに集まっている団体に、学校への協力をお願いすることで結びつきを作ると良いように思います。250 から 300 の多様な団体がありますので、登録をしていただいて、自分たちが持っているものを子どもたちに伝えていただければと思います。

佐藤職務代理者

岩沼市で行っている教育は、実学に結びついた内容が多いと感じています。宗教関係者で教育委員をしている方々の話を聞きますと、岩沼市は市民目線になって教育が考えられており、子どもたちが 10 年後 20 年後にどのように社会へ巣立っていくかを想定して教育を組み立てていることが感じられ、ありがたく思います。

経済格差が教育格差になり、その阻害要因が不登校につながっていることもあります。また、社会に出るための予備教育にも格差ができてしまいます。今後、教育を良くするための鍵は、英語教育だと思います。日本は自給率が低く、外国への依存度が高い国ですので、語学が就職にも影響してくると思われま。今、英語塾に子どもを通わせている家庭が増えています。小学校就学前から英語教育を受けている子と英語に接したことが無い子が同じクラスになったとき、先生は子どもたちにどのように接したらよいか危機感を持っているそうです。子どもたちがハンディキャップを持たないよう、ALT を充実させていただけたらと思います。

一人一人を活かすゆとり教育が始まった頃に子どもだった人たちが、今、小学生の保護者になっています。その前の世代では、みんなは一人のために一人はみんなのためにというように、仲良く社会を形成できる資質を学校でも学ばせてきました。それに対し、ゆとり教育で子どもの個性を伸ばすことに力を入れた結果、子ども同士の連携が無いままに大きくなった世代が社会のかなりの割合になりつつあり、先生にとって多人数の生徒を相手にすることが負担になっていると話しを聞きます。また、多様なハンディキャップを持った子が全体の6~6.5%いると言われ、授業を円滑に進められないクラスが出てきていると思われます。支援員や指導助手がいないと授業が成り立たない状態であるとの話も聞きますので、今後の教育をどのようにしていくべきかと感じます。

経済格差、語学教育の円滑化、より効果的な授業を維持するためには等、様々な課題がありますが、教育を原点から見つめなおす必要があるかと思ひます。

小林委員

岩沼市は、地域の中で子どもたちを育てることを一生懸命行っており、ありがたく思ひます。今、宮城県では学力問題が課題になっていると思ひます。頑張っているのに学力が伸びていないのは、子どもたちに身近な夢に向かう努力や学習の必要感が育っていないためではないかと感じています。地域の方の輝く姿を見せ、どういう職があるのか、どのような活躍の場があるのかを子どもたちに教え、自分の人生はどうしたいのか、そこから学習の意味を考えさせたいと思ひます。キャリア教育は、本格的には高校や大学だと思ひますが、小学生から意識化させることが必要ではないでしょうか。岩沼市に糸口は数多くありますが、それを広げられないものかと思ひます。利府町では、NPO みやぎせんだい子どもの丘の協力で、仮想空間で職業を選んで働き、給料を得るといふ、職業教育を行ったそうです。行政サイドでもこのような支援ができることを知り、キャリア教育を岩沼市でも考えていくヒントになるものと思ひました。地域の方々を活かしながら、生涯教育を学校と共に探つて何かできないものかと思ひます。

菊地市長

仮想空間で働いてお金のやりとりをすることは、今までに味わったことが無いでしょうし、子どもたちにとって気付きや興味を持つ良い経験になったと思います。将来、世界が身近な状態として生きなければならないことを考えると、広い視野を持つ必要があると思います。

ALT については、今年、債務負担行為により 32 年度まで予算を確保することについて議会の承認を得ました。良い人材の奪い合いになる中、教育委員会では素晴らしい先生の獲得を頑張ってもらっています。外国語を身近なものにしないと世界の中心で仕事が出来なくなる危機感があります。翻訳機があっても、普通に話し、受け答えすることが、いかに大事かと感じています。ALT を大いに活用したいと思います。

名取支援学校 30 周年記念式典に出席した際、発達障害の子を実際に見てきました。皆と一緒に活動が難しい面もあり、一緒に授業では他の子どもへ影響があることを感じました。まだ決まってはいませんが、何らかの対応をしたいと考えています。

経済格差が教育格差になっていることについて、子ども 2 人を学習塾に通わせたら、かなりの金額になります。そのために、子どもたちの教育に差が出てくることは心配なところです。

子どもの心のケアハウス事業について、議会の質問に対し、教育長は不登校の生徒数を話しませんでした。それは、不登校の子がインターネットなどで情報を知り、負担に感じるのではないかとの配慮です。ケアハウスに行けるのであれば、学校にも行けるのではという思いがありますが、まずは、スタートしてみようという思いがあります。

先日、子ども食堂の運営に対して補助をしてほしいと話があったのですが、制度化されていないこともあり、時期尚早と考えて断りました。岩沼の子ども食堂には、現在、民間の数団体が支援していますが、今のところは民間による助成をお願いしたいと思っています。市が助成するとなれば、相応の責任が生じます。もしも子ども食堂が、安定した運営ができなくなった場合、今まで助成していた方も支援しなくなり、市が責任を負わなければならないような気がしています。市で中途半端な支援をすることはで

きないと考えているのですが、皆様はどのようにお考えになりますか。

佐藤職務代理者

宗教施設で子ども食堂を行っている所がかなりあります。お寺の会館や教会の施設など、食堂を行う施設が恒常的に使えるようであれば、運営者が変わっても続けることができているようですが、借り上げの施設で行っている場合には、施設が変わった際にトラブルがあって止めてしまうことがあるようです。保健所との兼ね合いや施設の改良にお金がかかるといった面もありますが、全国的な支援ネットワークもあり、弾力的に考えることで岩沼市でも出来ると思います。コーディネーターを発掘し、地域社会へ根付かせることが課題になると思われれます。

菊地市長

もう少し様子を見て、勉強したいと思います。

団体や企業が防犯カメラを設置する経費について、市で助成することを考えています。通学路への設置など、市で設置することが必要な箇所もあると思いますが、犯罪の抑止になるように考えていきたいと思っています。

南館委員

子どもの心のケアハウスについて、発達障害など様々な要因により一緒に活動することが難しい子を集めてケアする素晴らしい事業だと思います。

宮城県はいじめの発生率が高く、今後増えることが心配されています。いじめの加害者には成績が中の上の子が多いそうで、注意されてもなかなかやめられない子もいるようです。そういった子は、親が過干渉の家庭が多い傾向があると聞きました。いじめの環境には連鎖があり、なかなか止められないということがあるようです。自害してしまうという最悪な事態にならないことが1番ですので、命を守るために「家にいなさい」と言うことが必要な場合も考えられます。そういった子どもたちを集められるように、幅広い形でケアハウスを運営できないでしょうか。いじめの問題は学校の先生方も悩み、抱え込んでいます。子どもが逃げられる場所として整備し、きちんと話を聞いて対応で

きる人を育てることが大事だと思います。

また、例えば、授業前にヨガや瞑想をして心静かにする時間を持つことで、いじめる子どもたちのストレスを軽減し、慈愛の気持ちが深まる効果があったとの報告もあるので、そういったものを取り入れることを考えていけたらと思います。

百井教育長

英語教育について、特に中学 3 年では差があって授業がやりづらいと聞きますので、対応を考えなければいけないと思います。英語は積み重ねの学問ですので、学校でどのように取り入れるか、差を詰めるにはどうしたらよいか早急に考える必要があります。

学び塾について、学力調査によると少しずつ成果が出てきていることが分かります。学校によっては、全員に教材を準備して学習させています。今後も学び塾を続けていきたいと思っています。

指導助手、特別支援指導助手、特別支援教育支援員については、県内で岩沼市が最も早く取り組みました。発達障害など手の掛かる特定の子どもに対応する職員を配置することで、担任は他の子にも目が行き渡り、指導ができるようになります。少人数学級も必要なことですが、これからも岩沼市では指導助手、支援員を充実させていきたいと思っています。

子どもの心のケアハウスは、不登校の子が集まれる場所として整備していきませんが、不登校の子を持つ親御さんが相談でき、また、親同士で話し合える場にしたいと思っています。さらに子どもたちの学習支援もできるといった、魅力ある場になるよう選定していきたいと思っています。先行している町では、半年間、誰も来なかったけれども、担当者子どもが関係づくりをしていったそうです。すぐに結果が出ないかもしれませんが、地道に積み重ね、地域の中で子どもたちを見守るようにし、子どもたちが外に目を向けられるようにしたいと思っています。

理科大好きフェスティバルでは、ロケットの発射の瞬間の音を体感して説明を聞き、各ブースで専門家による実験を見るなど、子どもたちにとって良い経験になったと思い

ます。これからも機会を拡充していきたいと思ひます。

利府町で行われた仮想空間の職業体験については調べさせていただき、参考にしたいと思ひます。

佐藤職務代理者

子どもの心のケアハウス運営事業は、とても大事な事業だと思ひます。不登校の子どもたちは、コミュニケーション能力をどうすれば持てるかということが悩みであることが多いようです。少しでも技術を身に付けることが自信になり、社会を生き抜くことができるようになることもあると思ひます。地域ボランティアと連携し、実学教育をケアハウスに入れるのはいかがでしょうか。子どもたちに社会の中で何をやってみたいか聞いて、それを伸ばしてあげられればと思ひます。

菊地市長

子どもの心のケアハウス事業には県の考えもありますので参考にしながら、どのような事を盛り込めるか検討し、できることなら市民の方々からの手助けをもらえることがあると良いように思ひます。過度に期待してはいけませんが、受け皿を作ることで、保護者の負担を軽減することが必要なのだと思ひます。

佐藤職務代理者

敷居を下げて、子どもたちが気軽に覗ける場所というスタンスが良いように思ひます。

菊地市長

子どもたちが引きこもりにならないように、この事業を進めたいと思ひます。

教育長から、部活動についてお話をください。

百井教育長

3年前から部活動検討委員会を立ち上げて検討してまいりました。教職員は朝や放課後、休日の部活動指導により、事故や体調を崩す人が出て、辞める人もいます。また、子どもたちの発育にも影響があり、部活動の成果を期待されて高校進学をしたけれど、駄目になったということもあります。部活動と授業のバランスが大事なのですが、現在、

授業の質が十分に確保されているとは言い難いと思われます。子どもたちが「分かった」「できた」という経験をし、学習の喜びを得るためには、前もって授業の準備をすることが必要です。今後、部活動を精査することを考えています。

8月末から9月には、中学3年生の非行が増えます。それは、部活動が終わった子どもたちが、今まで自分で自分の時間を使うことをしていなかったために、時間の使い方が分からず、非行に走る子が増えているのです。学びや時間の使い方を子どもたちに考えさせたいと思います。

中体連の統括ができていないという問題もあります。県の中体連担当者が2年程度で代わるため、前例踏襲をするしかなく、責任問題が整理されていません。中体連の会費を文化部加入の子の分まで納めていることなど、妙な状況があることが分かっているにもかかわらず、組織が肥大化しているために、組織を改善することが難しくなっています。

子どもたちの学びと身体を考えた休みが必要です。学力は点数で判断しがちですが、点数に表れないものも理解する必要があります。今、中学校の大部分の授業が点数を取るためのものになっています。

文科省では、子どもの運動時間を週16時間以内にすることを推奨しています。体育の授業時間も含めて部活動の時間を考えると、まだまだ多い状況です。中学校を学びの場所として考えると、部活動を制限しなければいけません。人事面から見ても、中学校の教職員は部活動のために勤務時間が長くなることから、子育てなどを考える、特に女性職員は管理職になりたがらない傾向にあります。子どもも教職員も普通の生活を営みながら深い学びをし、余裕があったときに部活動をすべきというものです。

保護者から部活動の不満の声が寄せられていますが、学校の守備範囲があると思いません。部活動であれば、教職員の勤務時間の中でやれる範囲です。本来であれば、素人の教職員が子どもたちと一緒に競技について学びながら部活動をするということであったのに、試合で勝つための部活動をしています。このままでは中学校の学びが崩壊してしまいます。我々は子どもたちの将来を考えた素地を作るのみで、アスリートをつくる

訳ではありません。子どもたちには深い学びをしてほしいと思っています。

菊地市長

部活動については、県のガイドラインを目安にするのだと思います。子どもたちや先生方の体調に影響があるようではいけませんので、御意見をいただきながら部活動のあり方を変えていきたいと思っています。

議題（2）については、議題（1）の中でも話していただきましたので、次の議題（3）平成31年度以降の教育等の振興に関する施策の大綱について、事務局から説明をお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

資料6頁にございますのが、27年度から30年度までの教育等の振興に関する施策の大綱でございます。赤文字は、11月7日の教育委員会定例会においていただいた御意見です。この御意見を踏まえ、資料7頁、31年度から34年度までの4年間の施策の大綱（案）として、教育環境が充実するまち岩沼のこれからの教育を押し進めるために、現在の大綱の主な考え方を引継ぎ、具体的な施策の方向性について一部手直しを行ったものをお示ししました。

たくましさやさしさを培う学校づくりの推進については、「創造的で特色ある学校づくりを推進し、児童生徒の充実した学校生活の実現に期する。社会の中で自他を認め、多様性を互いに尊重し合い、新しい時代を力強く生きるための土台となる、思いやりや社会性、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、自らの夢や志を持ち、それに向かい学習に取り組めるよう、「夢をはぐくみ、愛のある教育」の一層の充実に努める。」

学びと潤いにみちた地域社会の実現については、「市民の誰もがいつでも学ぶことができる環境を整え、生涯にわたる学習や交流の場等の提供に努める。多様な学習成果の実践や活動への参画を通して、地域コミュニティの活性化につなげていくとともに、学校・家庭・地域の連携を図り、社会全体で子どもたちの豊かな人間性と社会性を育む環

境づくりに努める。」

かおり高い芸術文化の醸成については、変更はありません。

感動と活力あふれるスポーツの振興については、「市民のスポーツ環境を整備するとともに、誰もが生涯にわたりスポーツに親しむ機会や、交流の場等の提供に努める。」と、あらためまして提案させていただきます。よろしくお願いいたします。

菊地市長

31年度から34年度までの大綱（案）について御意見はありますか。

構成員

（なし）

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

この内容で施策を展開できれば、子どもたちの安全・安心な教育環境整備が進み、生涯学習・生涯スポーツを楽しめる環境が整えられるのではないかと考えております。

菊地市長

この大綱（案）を平成31年度から4年間の教育等の振興に関する施策の大綱としてお認めいただいてよろしいでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

異議なしということで、この大綱を正式な形とさせていただきます。

4その他 について、何かございますか。

百井教育長

先ほどの部活の件について、学校の部活動を制限していますが、代わりに総合体育館で陸上競技やヨガ、ボクササイズなど多様な講座を開いており、子どもたちは無償で受講できるようにしています。このような形で子どもたちの運動の機会を保障していきます。新年度からは、さらに広げていきたいと考えています。

菊地市長

体育施設の指定管理の中でも、レベルの高い指導をしていただける方々がおいでになると思われますので、市で予算をつけて事業を展開していきたいと考えています。部活動の無い日に、身体を動かす、何か催すということに誘導してみたいと思っています。今後、動きがあったら御報告します。

その他、無いようでしたら、本日の会議はこれで終わりたいと思います。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

皆様、お疲れ様でございました。平成 30 年度の総合教育会議は今回が最後となります。緊急事項等が生じた場合には適宜開催させていただきますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、平成 30 年度第 2 回総合教育会議を閉会させていただきます。

(午後 4 時 43 分閉会)

この議事録の作成者は、次のとおりである。

教育総務課総務係長 山下 真理子

教育総務課主事 田崎 恭子

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

平成 31 年 2 月 14 日

議事録署名人 藤川 千エキ